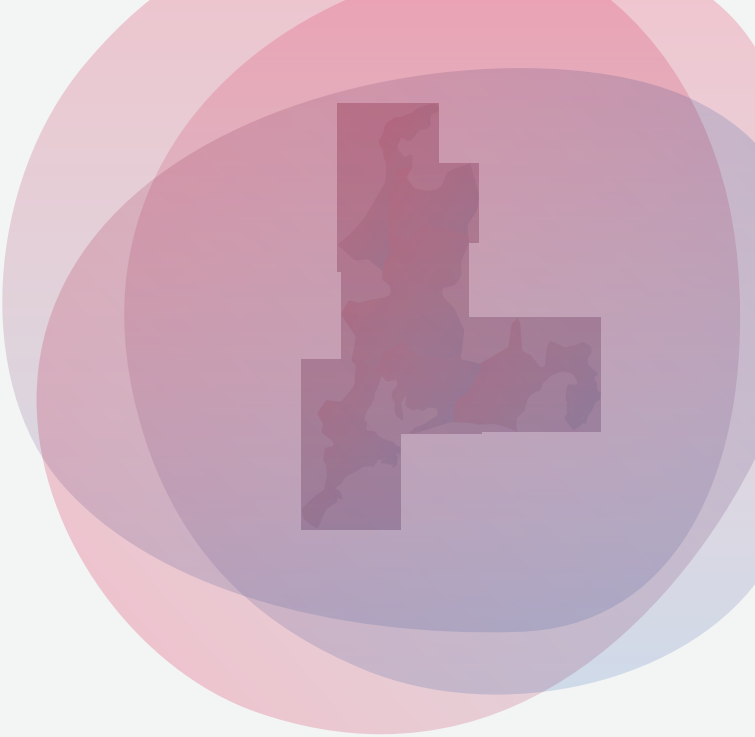


Let's become a pharmacist of NHO

NHOの薬剤師になろうよ

病院薬剤師

東海北陸国立病院機構薬剤師

Tokai Hokuriku national Hospital Pharmacists Association

キャリアパス制度（薬剤師育成カリキュラム）の導入により、薬剤師、そして医療人としての確実な成長をバック

薬剤科業務習得のための支援

採用から3か月、6か月、3年を目安に、調剤業務、製剤業務、DI業務など各種薬剤部（科）業務を経験・習得することで、主任薬剤師として責任を持って業務に臨めるようにスキルアップしていきます。

病棟業務ステップアップのための支援

各診療科の薬剤管理指導を経験し、ジェネラリストとしての薬剤師を目指します。その中で自分の進むべき専門領域を見つけ、ICT、NST、緩和医療などのチーム医療にも参画します。

各種研究や認定・専門薬剤師取得への支援

研修会等を通じて、学術研究をプランニングして学会発表したり論文を投稿できるように支援します。また、がん、精神、妊婦・授乳婦などの認定・専門薬剤師取得もサポートします。

東海北陸国立病院薬剤師会
Tokai Hokuriku national Hospital Pharmacists Association

アップします。

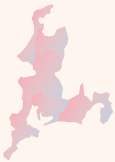
東海北陸国立病院薬剤師会が育てる絆

委員会活動を通じて倫理・学術的水準を高め、薬剤業務全般の向上発展に寄与し、会員相互の親睦を図っています。

充実した教育システムで成長を支援

国立病院機構には、医師、看護師、その他の医療スタッフとともに多職種合同で行われるさまざまな研修会が用意されています。これらの研修により確実に医療者としてのスキルを身につけることができます。
さらに、東海北陸国立病院薬剤師会(THP)※が企画する研修会であなたを薬剤師としてさらに成長させます。

研究デザインに関する研修
（学術研究委員会）



※東海北陸国立病院薬剤師会は東海北陸グループ内のNHO18施設、国立長寿医療研究センターおよび国立駿河療養所の薬剤師約220名で組織されています。

糖尿病療養指導士として

（平成28年・愛知学院大卒）**真野　澪**

私は学生時代から糖尿病に関心を持っており、入職時から希望を伝えていました。その結果、糖尿病療養指導士の資格を最短期間で取得することができました。現在は、当施設の特色を活かした高齢者糖尿病診療を中心に、病棟での患者指導にとどまらず、糖尿病療養支援チームのメンバーとして外来患者向けの糖尿病教室や地域に向けた糖尿病関連のイベントの企画・運営にも携わっています。私の働く国立長寿医療研究センターは日本に6つあるナショナルセンターのひとつであり、高齢者医療の専門施設です。日本の高齢者糖尿病診療をけん引していく気持ちで日々楽しく活動しています。日本の高齢者医療を一緒に引っ張っていきましょう！

ICT/AST担当薬剤師として

（平成27年・名城大卒）**愛知　佑香**

ICT/ASTは院内感染の発生を防ぐとともに、感染から患者さんや医療スタッフを守るために日々活動しています。

名古屋医療センターでは、平成30年度より新たに抗菌薬適正使用を支援するASTが組織され、多職種と連携しながら薬剤師も積極的に感染症治療に関わっています。AST担当薬剤師は要届け出抗菌薬や抗菌薬が長期に投与されている患者さんの治療状況を確認して抗菌薬が適正に使用されているかを評価し、必要に応じてチームの医師や看護師とラウンドを行い処方医師へのフィードバックを行っています。また、抗菌薬の投与設計やTDMの実施により抗菌薬の有効性を高め、副作用の軽減にも取り組んでいます。

患者さんの治療方針を多職種と一緒に考えることはチーム医療ならではのやりがいであり、自身の成長にもつながっていると感じています。

薬剤師もDMATで活躍しています！

（平成28年・名城大卒）**大井　勇秀**

DMATは、災害急性期に活動できる機動性を持つトレーニングを受けた医療チームと定義されています。三重中央医療センターは災害拠点病院であり、災害マニュアルの整備や災害備蓄薬の管理、院内勉強会の開催など、DMAT薬剤師として活動しています。また、いつ起こるかわからない災害時に備えて、県内や全国で日々訓練を行っています。災害現場では、救命目的の薬剤を投与する場面や、避難所でお薬手帳を基に患者の病態を把握する場面などがあり、薬剤師もDMATの一員として、医師や看護師と連携することが求められています。DMATとなり、トリアージなどの救急医療の知識や技能を取得することは、日々の臨床業務にも十分生かされます。
皆さんもDMATの一員となって一緒に活躍しましょう！

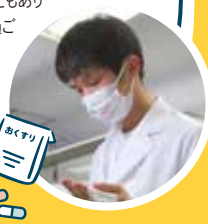
薬剤師の専門性を活かして

（平成30年・名古屋市立大院修）**松木　克仁**

私は名古屋医療センターにて、整形外科病棟での病棟業務やHIV外来に尽力しています。

整形外科病棟では、PBPM（プロトコールに基づく薬物治療管理）に特に力を入れています。PBPMとは、医師と事前に取り決めたプロトコールに基づき、薬剤師が用量調節などの薬物療法に積極的に関わることです。これにより、患者さんに適切な薬物治療を提供することができます。また、このPBPMを題材とした臨床研究にも力を入れていて、学会発表も行っています。

HIV外来では、治療のため通院している患者さんと直接会話をし、安心して薬物治療を行えるように服薬指導を行なっています。HIV治療は薬物療法がメインであるため、服薬アドヒアランスの維持が治療成功に大きく関わります。また、副作用や相互作用も多いため、薬剤師の専門性が発揮できる分野です。未知の部分も多い分野であるため、常に最新情報を提供できるように日々勉強に取り組んでいます。時に大変なこともありますが、薬剤師としての職能・知識を発揮できて充実した日々を過ごすことができています。国立病院機構は規模も大きく、自分の興味の持てる分野がきっと見つかると思います。国立病院機構の病院薬剤師として、充実した日々を送りませんか。



HIV感染症専門薬剤師として

（平成15年・金沢大院修）**平野　淳**

HIV感染症専門薬剤師として、主に外来患者さんに対する治療薬の提案、アドヒアランスや副作用のチェックなどを実施しています。HIV感染症の治療は一生涯服薬を継続することが必要となりますが、一時のアドヒアランスの低下が治療失敗に直結することと、副作用の発現頻度が比較的高いことから、常に治療経過に気を配っていく必要があります。また相互作用が問題となる薬剤も多く、他診療科から処方された薬剤はもちろんのこと、一般薬やサプリメント、健康食品に至るまで患者さんの服用している薬のチェックは欠かせません。一方で研究活動にも力をいれており、抗HIV薬の血中濃度測定なども測定系を開発して積極的に実施しており、臨床業務に役立てています。病院薬剤師として非常にやりがいのある職場で、研究活動も行いながら充実した日々を一緒に送ってみませんか？

極められます！精神科薬物療法認定薬剤師

（平成10年・北陸大院卒）**小林　純子**

東海北陸地区には18の病院があります。その規模や専門とする医療も様々で、全く縁がないと思う分野の病院、診療科で勤務することもあります。私は、精神科専門病院の榊原病院で常勤として採用され、その後、精神科専門病院の東尾張病院、名古屋医療センターへ異動し、現在、再び東尾張病院で勤務しています。

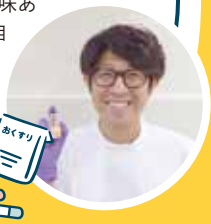
精神科薬物療法認定薬剤師なので、名古屋医療センターでも精神科病棟を担当しました。精神科の薬剤師業務は、急性期から関わり、回復期、再発予防期と連続して患者さんとともに回復を目指し、退院後も良い状態を保てるよう関わることだと思います。

就職した頃は、まさか精神科ばかりに関わるとは思っていませんでしたが、このように総合病院における精神科、精神科専門病院を経験できるのも国立病院機構ならではの面白みだと思います。

NHOのがん専門薬剤師

（平成13年・名城大卒） **井上　裕貴**

がん薬物療法は、適切に使用しなければ、致死的な有害反応を招くことが少なくありません。その中で薬剤師は、がんの薬物療法だけでなく、一般的な薬剤に関する薬理学的知識や合併症の病態の理解が求められます。それらの基本の上に、がんの病態、標準的がん薬物療法や支持療法の作用機序、薬物動態などの薬理学的知識および作用を意識した副作用対策の知識が備わり、多職種のチームで情報共有しながら患者さんに関わる中心的存在になることが、がん専門薬剤師としての使命ではないかと思います。NHOでは、そんなチームで患者に寄り添い、適正で安全にがん薬物療法を実行できるがん専門薬剤師を育成しています。がん薬物療法に興味ある方はNHOに入って、一緒にがん専門薬剤師を目指しましょう。



病院薬剤師から医薬品行政へ

平成30年度（採用）・厚生労働省 **市川　和哉**

私は東海北陸グループで病院薬剤師として採用され、がん専門薬剤師として勤務していました。勤務する中で、専門薬剤師としてのキャリアを進めるだけでなく医薬品行政に携わりたいという思いが強くなり、厚生労働省への出向を希望し、現在は薬系技官として厚生労働省に籍を置いております。厚生労働省では、医薬安全対策課という部署で医薬品の市販後の安全対策の業務に携わっています。医薬品の安全対策といっても業務は多岐にわたり病院薬剤師の業務とは全く異なるため右も左も分からない知識はゼロからのスタートでしたが、病院薬剤師としての知識や経験を活かせる部分も多く、今は充実した日々を送れています。

国立病院機構だからこそ病院薬剤師の経験を踏まえ厚生労働省等へ出向し、病院での勤務では得られない経験をすることができます。病院薬剤師として多くの選択肢があることも、国立病院機構の魅力の一つだと思います。国立病院機構で働いてみませんか？

緩和ケア病棟担当薬剤師を経験して

（平成22年・名城大院卒） **細江　慎吾**

豊橋医療センターの緩和ケア病棟は全国屈指の年間入院患者数の多い病院（日本ホスピス緩和ケア協会統計資料より）です。

緩和ケア病棟の多職種合同カンファレンスや緩和ケアチームに薬剤師が参加しています。医療用麻薬について患者さんやご家族に正しく理解してもらうことは大変重要なことです。薬剤師として医療用麻薬の正しい知識を説明することで、患者さんやご家族に安心してもらうことが大切です。また緩和ケアではつらい想いの患者さんとご家族をトータルで支える気持ちが大切であり、その経験は他病棟の薬剤管理指導を行う上でも役立っています。

NHOの各施設はそれぞれ特色があり、転勤により様々な経験ができるのが魅力の一つだと思います。

NST専門療法士

（平成21年・名城大卒） **安藤　舞**

栄養状態を改善して治癒を早め、また誤嚥性肺炎など新たな疾患を防ぐことはNST（栄養サポートチーム）の大きな役割です。NSTでは医師、薬剤師、看護師、管理栄養士その他多くの職種が連携し、患者さんの栄養に関する様々なことを担っています。

NSTに参加し、静脈栄養のメニューを提案したり、検査値や服用薬から食欲不振や下痢などの原因を模索したり、改善に必要な薬剤の処方依頼などをしています。自分だけで解決できない症例の場合には他の薬剤師に意見を求めますが、NHOでは他施設の薬剤師にも相談することができます。小児患者さんの栄養では小児を多く扱う施設の薬剤師、また他の施設でNSTを担当している薬剤師と協力することもあります。

多職種連携だけでなく、他施設の薬剤師とも連携できるのは国立病院機構だからこそです。研修も充実しており資格取得に必須の研修を機構内の病院で受けることができました。みんなでより良い医療を目指しましょう！

PMDAで働けるチャンスを得て

（平成15年・北陸大卒） **安達　尚哉**

国立病院機構では希望すれば医薬品医療器機総合機構（PMDA）で働くことができます。私は、安全第二部という部署に所属しています。安全第二部の業務は承認後の医薬品を安全に使用するための対策を立案することです。日々、医療機関や企業より報告される副作用報告や文献を評価し、海外規制当局の動向など様々な情報を総合的に評価して添付文書改訂など安全対策の要否を検討しています。このような経験は病院勤務では得ることはできません。PMDAで働き添付文書など医薬品情報の読み方が大きく変わりました。臨床現場とは全く異なる業務を経験できることは国立病院機構の大きな魅力だと思います。国立病院機構で働き、ぜひPMDAなど行政の業務を経験してください。

NHOは臨床研究・治験を推進しています

（平成28年・岐阜薬科大卒） **永田　翔子**

NHOは「医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます」という理念があり、臨床研究・治験にも力を入れています。私は、研究管理室に所属し、治験薬の管理、治験事務局、CRC（臨床研究コーディネーター）など、治験に関わる業務を行っています。

治験というのは、責任医師、薬剤部、看護部、検査科、放射線科など多くの部署の協力が必要となります。院内だけではなく、治験依頼者（製薬会社）も関与し、大きなチームとして様々な職種の人が関わっています。その中で、薬剤師として働くことは、薬剤師としての職能を生かせるというやりがいもあり、責任の大きさを感じます。

多くの人と協力し合い、将来の新薬誕生に関わることができるのは、とても貴重な経験だと思います。是非、NHOで臨床研究・治験を推進していきませんか。

NHOって？

国立病院機構（NHO ＝ National Hospital Organization）は、全国140の病院を一つの組織として運営する独立行政法人です。これまで、全国に展開する国立病院・療養所は厚生労働省が運営してきましたが、病院の自主性・自律性を活かして、医療サービスの向上や効率的な運営を実現するため、2004年に独立行政法人となりました。2015年には多様で良質なサービスの提供を通じた公共の利益の増進を推進することを目的とする中期目標管理法人（非公務員）となりました。

東海北陸グループ 病院・関連施設 MAP

石川県

⑮金沢医療センター
⑯ 医王病院
⑰七尾病院
⑱石川病院

富山県

⑬北陸病院
⑭富山病院

岐阜県

⑨長良医療センター

三重県

⑤鈴鹿病院
⑥三重病院
⑦三重中央医療センター
⑧榊原病院

愛知県

①名古屋医療センター
②東名古屋病院
③東尾張病院
④豊橋医療センター
★ 国立長寿医療研究センター

静岡県

⑩天竜病院
⑪ 静岡てんかん・神経医療センター
⑫静岡医療センター
☆ 国立駿河療養所

★☆は人事交流病院です

ある薬剤師の一日

平成29年
金城学院大卒
伊藤 祐奈

08:30

朝のミーティング

朝のミーティングでは、会議やカンファレンスの予定を確認します。医薬品情報もここで共有しています。

08:40

トレーシングレポートの確認

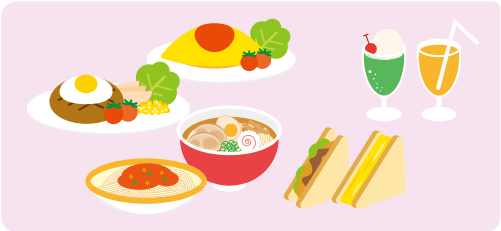
保険薬局から届くトレーシングレポートの確認を行い、次回処方で変更等が必要な場合は電子カルテを通じて医師へ連絡しています。

09:10

抗がん剤調製

レジメンの内容や調製方法を確認し、医師からの連絡後に調製を行っています。曝露しないように安全キャビネットで調製しています。

11:30



お昼休憩

各自、自分の席でご飯を食べます。病院内には食堂やコンビニがあります。

12:30

調剤業務

院外処方箋を発行しているので、ほとんどは入院患者さんの内服・注射の調剤を行っています。規格に注意しながら慎重に調剤しています。

13:30

病棟業務

医師や病棟看護師と情報共有し、服薬指導を行っています。入院患者さんの持参薬確認や、患者さんへの配薬、看護師管理の必要な患者さんの薬は配薬カートにセットし薬の管理を行っています。

16:00

病棟カンファレンス

週に1度、医師とのカンファレンスに参加しています。入院患者さんの治療方針など、医師と情報共有を行っています。

病院薬剤師

東海北陸国立病院機構薬剤師

Tokai Hokuriku national Hospital Pharmacists Association

貯　　法：室温保存 使用期限：資料請求先に提示された期限内に使用すること	
承認年月	2004年4月
販売開始	2004年4月
国際誕生	1945年

1. 警告

1.1 本書を受領した際は、速やかに応募要項に従い、応募手続きを行うこと。
［長時間放置することで、気持ちが変わることがある。］

1.2 因果関係は不明であるが、本書の放置、廃棄等の異常行動を発現した例が報告されているので、本書の必要性がその危険性を上回る場合のみ、本書を取得すること。

2. 禁忌（次の薬学生および薬剤師は取得しないこと）

2.1 NHOに対し、過敏症のある薬学生および薬剤師［転職を誘発するおそれがある。］

2.2 アルバイトを併用する薬剤師

3. 組成・性状

3.1 組成

成分・含量：20施設中約208人を含有
男性約45%、女性約55%
含有（含有量の変動あり）

添　加　物：薬剤助手、SPD

3.2 性状

東海北陸グループ内の国立病院機構18施設と国立長寿医療研究センター及び国立ハンセン療養所の計20施設を含み、略式コード及び形状は下記のとおりである。

販売名	※略式コード	※外形
東海北陸国立病院機構薬剤師	THP	

4. 効能又は効果

○早期に病棟業務に従事することができ、患者さんの状態やニーズに応じた薬物療法の提案や指導が可能

○下記疾患の知識取得が可能
がん一般、呼吸器疾患、消化器疾患、循環器疾患、糖尿病・内分泌疾患、神経難病、血液疾患、精神疾患、他（HIV、結核、重症心身障がい、リウマチなど）

5. 効能又は効果に関する注意点

医師や看護師など他の医療スタッフとのコミュニケーション能力やチームワークが身につく。また、各種認定専門資格を取得することも可能。
がん専門薬剤師、感染制御専門薬剤師、精神科専門薬剤師、妊婦・授乳婦専門薬剤師、HIV専門薬剤師、日本糖尿病療養指導士、栄養サポートチーム専門療法士、漢方・生薬認定薬剤師など。

6. 用法及び用量

通常、朝8時30分から17時15分までを勤務時間とする。月曜から金曜日の5日間連続勤務し、その後2日間休日とする。これを1クールとし繰り返す。勤務時間は勤務体制により適宜増減する。

7. 用法及び用量に関連する注意

宿直勤務がある施設では、宿直勤務により勤務等が不規則になる場合がある。

8. 重要な基本的注意

8.1 困ったことがあれば、上司や先輩に気軽に相談すること。

8.2 ストレスが生じた場合には、上司や先輩に相談の上、年次休暇取得なども検討すること。

8.3 リフレッシュ休暇は3日間必ず取得すること。

8.4 研修会などの機会を有効に活用し、薬剤師として成長していくこと。
［相互作用の項参照］

9. 特定の背景を有する場合に関する待遇

9.1 妊婦・授乳婦への待遇
産前・産後休暇、育児休暇の制度があり、安心感が認められている。

9.2 育児への待遇
男性の育休制度もあり取得可能である。育児休暇後の復帰に伴い、時短勤務の制度が整っている。未就学児の体調不良などに対して取得できる看護休暇の制度がある。育児休暇後の職場復帰は大歓迎されている。

9.3 介護への待遇
家族への介護休暇の取得例もあり、支援体制が整っている。

10. 相互作用

10.1 東海北陸国立病院薬剤師会
［新人研修］
自施設の仕事に慣れたころに開催される新人研修に参加することにより、モチベーションの増加が報告されている。

10.2 東海北陸国立病院薬剤師会
［総会］
東海北陸グループ内20施設の豊富な知識を有する薬剤師と交流することにより、多くの問題が解決されることが報告されている。

10.3 東海北陸国立病院薬剤師会
［委員会主催研修］
業務推進・教育・研究の委員会があり、各委員会主催の研修参加により、日常業務における疑問や問題点を解決することができる。単施設では取得できない知識を身に付けることができ、相乗的な知識増加が報告されている。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

11.1.1 ショック

給料は公務員に準ずるため、初任給の明細を見たときにショックを受ける可能性がある。しかしながら、給与表により確実に賃金が上昇するため、経年的に症状が軽減され生涯年収については満足感が得られることが多い。

11.1.2 不安

人事交流という名の転勤があるため、転勤時期になると不安があらわれる事がある。しかし、転勤により、薬剤師として大きく成長することが報告されている。

11.2 その他の副作用

	0.1～5%未満	0.1%未満	頻度不明
精神神経系	高揚感、多弁	疲労、眠気	当直中の不眠
消化器系	飲みすぎ消化不良	下痢	口内炎
循環器系	高血圧		
血液		鼻出血	針刺しによる出血
過敏症	手荒れ		
その他	体重増加 社内結婚	二日酔い	電球交換時の骨折 注1)

注1) この場合は労災が下りたと報告されている。

16. 薬剤師動態

薬剤師として本機構に吸収後、各施設に分布する。継続勤務により、薬剤師そして人として成長し、主任薬剤師、副薬剤部長、薬剤部長に代謝（昇進）され、60歳で、機構より排泄（定年退職）される。なお、本人希望により再吸収（再任用）されることもある。

24. 主要資料および資料請求先

24.1 主要資料

応募要項
https://tohkai.hosp.go.jp/recruit/comedical/pharmacist.html

24.2 資料請求先

独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization

東海北陸グループ事務所
〒460-0001
愛知県名古屋市中区三の丸4-1-1
TEL　052-968-5171
URL　https://tohkai.hosp.go.jp/

●詳細は独立行政法人国立病院機構東海北陸グループ事務所ホームページをご覧ください。
また、禁忌を含む使用上の注意の改訂には十分ご留意ください。

※2024年6月改定（第6版）／2022年7月改定（第5版）／2019年2月改訂（第4版）／2018年2月改訂（第3版）／2015年12月改訂（第2版）／2012年3月改訂（第1版）